

水害経験と備える知恵 (東近江市小川町・種町)

昭和28年台風13号
 ・愛知川下流の栗見出在家で決壊した。
 ・小中干拓地の堤防が決壊し、浸水した。

**昭和28年台風13号、
昭和34年伊勢湾台風**
 で葉枝見橋が流された。

大同川の氾濫によって
 田んぼが水没すること
 が年に2、3回程度あ
 った。



[昭和34年台風7号]

昭和34年伊勢湾台風
 大同川が氾濫したため、
 集落内には床上浸水の
 被害があった。



[昭和34年]

八宮赤山神社
 明治29年の洪水記
 念碑がある。

水害写真
 JR能登川駅の方向を
 望む。



[昭和34年] [現在]



昭和28年台風13号
 J R能登川駅は少し地盤が高くな
 っているため、「堤防が切れた」と聞
 いて駅に避難した人がいた。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 令元情複、第422号)
 第三者がさらに複製する場合には、国土地理院長の承認を得なければならない。

愛知川の危険箇所『ごか』
 葉枝見橋付近の左岸堤防は川が大きく曲がっている
 ことから危険箇所として認識されていたため、周辺
 の5つの集落(今、小川、鉢光寺、川南、阿弥陀
 堂)が集まり、この付近を集中的に警戒した。

水害写真
 琵琶湖の方角を望む。



[昭和34年] [現在]

大同川
 ・昔の大同川は堤防が少なく、すぐ溢れた。
 ・土壌を積みこいたことがある。

昭和28年台風13号
 今町で床上浸水が発
 生した。

明治時代に決壊

明治時代に決壊
 ドリームハイツのある場所は、
 J Rの線路周辺から、水が逆流
 して、浸水する場所である。

呼びぶれ
 公民館横の太鼓部屋に鐘があり、非常召集
 の時は鐘を早く叩いて合図した。



昭和28年台風13号
 神郷町地先の決壊場所



先人からの教え
 「川幅の狭くなっている場
 所で北風が吹くと、水が押
 されて立ち上がり、堤防を
 盛り越し、それが決壊の原
 因になる。その為、北風に
 は注意している。」

**明治時代に堤防が約120mに
渡って決壊した。**

警戒の目安
 ・雨量に注意し、危険かど
 うかの判断をしていた。

・左岸は低い。
 ・きちんとした堤防がなかった。

・明治時代の洪水による
 決壊後、大正時代に
 霞堤がつくられた。



[現在]



[本行寺]

・本行寺は地盤が高いため、
 明治時代の水害では避難所
 になった。
 ・昭和28年の水害では、御
 拝の三段目と四段目の中間
 まで水が来た。

凡 例

- : これまでに破堤、越水、浸水が発生した場所
- : 水害に対する知識を確認できる場所
- (Yellow) : 過去の水害に対する詳細情報
- (Green) : 水害に対する知恵の詳細情報
- ➡ (Blue) : 過去の水害時のはん蓋水の流れ